
十字架背負う花天使達（事件外伝）

蓮千里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十字架背負う花天使達（事件外伝）

【Zコード】

N4700A

【作者名】

蓮千里

【あらすじ】

『普通の少年少女達で、遊びに行つた帰りの飛行機内では、やかましくとも楽しそうな声が飛び交っていた。でも、その時間はあつという間に消え去ることとなる。

(前書き)

私の欲しいもの。

それは、過去へ戻る時間……

登場人物名簿

蒼霞純歌（あおがすみ　じゅんか

向田佳（むかひ　けい

大出秀人（おおで　しゅうと

相場巫斗（あいば　みこと

茶山透香（ちゃやま　とうか

紅葉駿季（あかしは　としき

ユザナ・H・ハーブ

レミカ・D・バイオレット

セベント・ヒース

ギゼル・ツンベルギア

思えば、ホントに

突然のことだった

よかつたのかも知れない。

何も知らない方が

でも、私は全てを知った。

そし

て後悔なんてしていない。

2000年の春休み、飛行機内にて

「あ……！－ケイ、今ズルしたでしょ！」

突然の大声で視線を浴びる子供達。

ひとりの少女が立ち上がり、同時にトランプが床に落ちる。

少年に向かって人差し指を向け、こめかみに青筋を立てながら……

子供達に向けられる視線の中には、うざつたい顔をしている大人達もいる。

「……純歌、恥ずかしいから座つてよ」

「佳がズルしたのは俺達も知ってるから、ね？」

視線が耐えられなくなつた透香と巫斗は、純歌を落ち着かせながら無理やり席に座らせる。

「だから嫌だと言つたじゃないか……」

顔を覆いながら嘆く秀人。

彼は、いつなることを恐れてひとりだけ嫌だと言い続けていたのだ。

「純歌、はい、落としたトランプ。佳のなんだからなくさないようになちゃんともつてなよ」

落としたトランプを全部拾い集めた紅芝駿季が、純歌の手の中にしまっていった。

30分前

「おじー・トランプでもこよみがせへ

ガサゴソとリュックの中からトランプを出した向田佳。

「おっしゃあ！負けないかんねー！」

強気で喜ぶ蒼靈純歌。

「…………まあ、後30分はあるし」

「暇つぶしにはいいかもね…………って秀ちゃん、嫌なの？？」

相場巫斗の言葉を継ぐ茶山透香が、ぼけーっと窓の外を見たままの

大出秀人に声をかける。

「ヤダ」

即答する秀人。

「えー？ 何でさあ…… シュート君へやうつよつ

だだをこねる純歌を見て、読書を堪能していた駿季が話しに割り込む。

「……秀人、俺も入るから、やらないか？」

「駿季さん、本氣？」

駿季の申し出に驚く秀人。

「じゃないと、五月蠅いだらうつ、このままやらなかつたら……」

「…………いいよ、入るよ」

ため息をつきながら、後半の台詞を純歌に言つ秀人。

「駿君もやるの？ じゃ、普通のババヌキから始めよつ！」

こうして、トランプは始まつたのだった。

プリメット裏通り

「ゴザナ、ゴザナアーー！」　？　？」

レミカが仲間の名前を呼びながら、闇の城の中を歩き続ける。

「ゴザナってばどこにいたんだろ？……ゴーザーナーーー！」

あまりにも声を大きくしすぎ、自分自身の耳が痛くなるレミカ。

「…み、耳がワンワンするよ、…痛いよ！」

もう、半泣きだった。

闇の城に光と言つものは存在しない。

プリメット裏通り事態が光を好まないためだ。

だからこそ、真夜中の城内がレミカは大嫌いだった。

「……お、おばけでそりだよ、ギゼルが呼んでるのに！」

こわいわと確實に歩きながら、暗闇の中ゴザナを探すレミカ。

「なにやつてんの？レミカ」

突然、ポンと肩を叩かれるレミカ。

思わず、大声を出し後ずさる。

「つひやあー！……ってセベントかあ、びっくりした」

心臓を抑えながら、仲間のひとりセベント・ヒースに尋ねてみる。

「ユザナ、知らない？」

「ユザナ？さっき大広間にいたけど？」

即答してくれるセベント。

「 大広間？」

駆け出そつとしていたレミカの足が止まる。

「うん、大広間。レミカは何してるんだい？『あれ』は今から実行するはずだけど」

ニッコリと笑うセベント。

「入れ違いになつたのぉ～」

その場で崩れ落ちるレミカの表情はマジ泣き寸前だった。

「ああ、30分前だよ。一緒にに行ひ」

セベントは彼女の腕をズルズルと引っ張つて大広間へと向かう。

* * * *

飛行機内にて

「へーへー、どーせ俺が悪いですよ。悪かつたな！馬鹿純」

後ろに腕を組みながら佳は純歌に不正を詫びる。

「…謝つてないでしようが、その言い方」

言い方にかなり問題あるのは認めるが、何故ここで許さないのだろう。

その方が大人なのに……

ドッカ
ン！

雷が飛行機に落ちたような音。

全ての光が消えてしまつ。

ガコソ、という奇妙な揺れも感じられた。

『ピーピーピー……ピーピー……』乗務員はすぐに集まつてく
ださい』

奇妙なアナウンスが聞こえ、一斉に集合場所に向かう乗務員達。

「なにかあつたのかなあ」

『テ、と首をかしげる透香に答えたのは駿季。

「『』の飛行機が……燃えている』

窓からよく見えた。

飛行機の後ろ部分が落ちていくのが、黒い炎が彼等を飲み込んでいく。

意識はすぐになくなってしまつ。

自分達の意思に反して

* * * *

プリメット裏通り

「さあ、標的を決めよ!」じゃないか」

ギゼルが楽しそうに発する。

「……ねえ、この飛行機なんてどお? 乗客500人内、218人が子供。」

不気味な笑みを見せるゴザナ。

「へえ、いい鑄物じゃないか?」

「うわあ、子供の数多いねえ……やりがいあつそつ」

セベントとレミカが同意する。

「じゃ、今回はこいつらで」

言いつつ、窓を開け放つギゼル。

手には闇の剣が握られている。

「闇の剣の主が命令する 地上を飛び続ける我等が目をつけた

飛行機に我等の力を!」

ギゼルが闇の剣を正面に構える。

「我等の獲物に闇を！」

といふのはレミカ。

「我等の玩具に死を！」

鋭く言い放つユザナ。

「我等の力を今、みせん！」

セベントも続き、4人の闇の剣が重なり合つ。

次の瞬間。

剣から黒い雷が空に向かつた。

とても、大きな雷が

* * * *

プリメット裏通り

「簡単にできたわねえ……」

楽しそうに冷笑するユザナ。

その顔には『後悔』の文字は見当たらない。

「苦しまずに逝けたんだ……感謝して欲しいね」

ギゼルの表情には笑顔が広がっていた。

「さあ、次の玩具を決めましょ！」

ユザナはまだ、笑っている。

* * * *

『あれえ……』『何処だらけ……』

あたしが田を覚ました時、あたしは奇妙な場所にいた。

「てか、何で透けてるわけ？？？」

「そりゃあ、死んだら透けるから」

あたしの疑問に答えたのは、トーカ達ではなかつた。

彼女達の聲音と全く違つ。

反射的に振り向くと、そこには『あたし』がいた。

「あ、あたしが2人い？！つて死んだ？！なんで？理由は？？だつ

てせつをまだ歸と……あ、歸は何処に

あたしは慌てすぎて、何言つてるのか自分でもわからない。

そんなあたしを見て、『あたし』はひとつだけ答えてくれた。

「 生きてみない？もう一度」

あたしは声が出なかつた。

「 はい？」

ものすぐ間抜けな答え方をしたと思つ。

だけど、当然の反応でもあると思つ。

「私は花天使のティアラ・ジップソフイラ。カスミンウより生まれし者」

全く意味がわからない。

「貴女は、あたしに『貴女の外見』と『名前』を貸してくれればいいわ」

ティアラは淡々とそう言った。

「そして貴女は『あたしの』名前と『魂』を守ってくれればいい。時がくるまで、ね」

意味ありげな眼差しに、あたしは負けた。

「わかった。正し条件があるわ。

あたしに何が起きたのか、全てを見せて欲しい。どんな結果が待つても」

「…………いいわ。それで貴女の気がすむのなら」

かなりの間をおいてティアラが答える。

あたしは思い切って聞いてみた。

「花天使って？」

何で普通に『天使』と名乗らないかと不思議でならなかつたのだ。

ティアラは笑つて教えてくれた。

「あたし達は、花から生まれて、その花を誇りとして人間の『罪』

を成仏させるのが役目。

あたしは、そう教えられた。そして誇りに思つてゐる。

『花』は穢れていない……『人間のように』醜いところがない。だから、成仏させられる

今、気がついた。

彼女の手には恐ろしく細く長い十字架が握られていることに。

「穢れる」とのない……から、か

思わず声に出すあたし。

「ところで、貴女の名前は？」

ティアラが尋ねてきた。

「あたし？あたしの名前は『蒼霞純歌』」

(事件編) END

(後書き)

一応、補足。

ここに出てきているメンバーが、それぞれの花天使達の器です。

紅芝駿季がデイツク・クローバーなんですよ。

本編で出すことが出来なかつたのを今でも後悔しています。

では、またお会いできるのを祈りつつ……

Rue

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4700a/>

十字架背負う花天使達（事件外伝）

2010年12月2日03時26分発行